

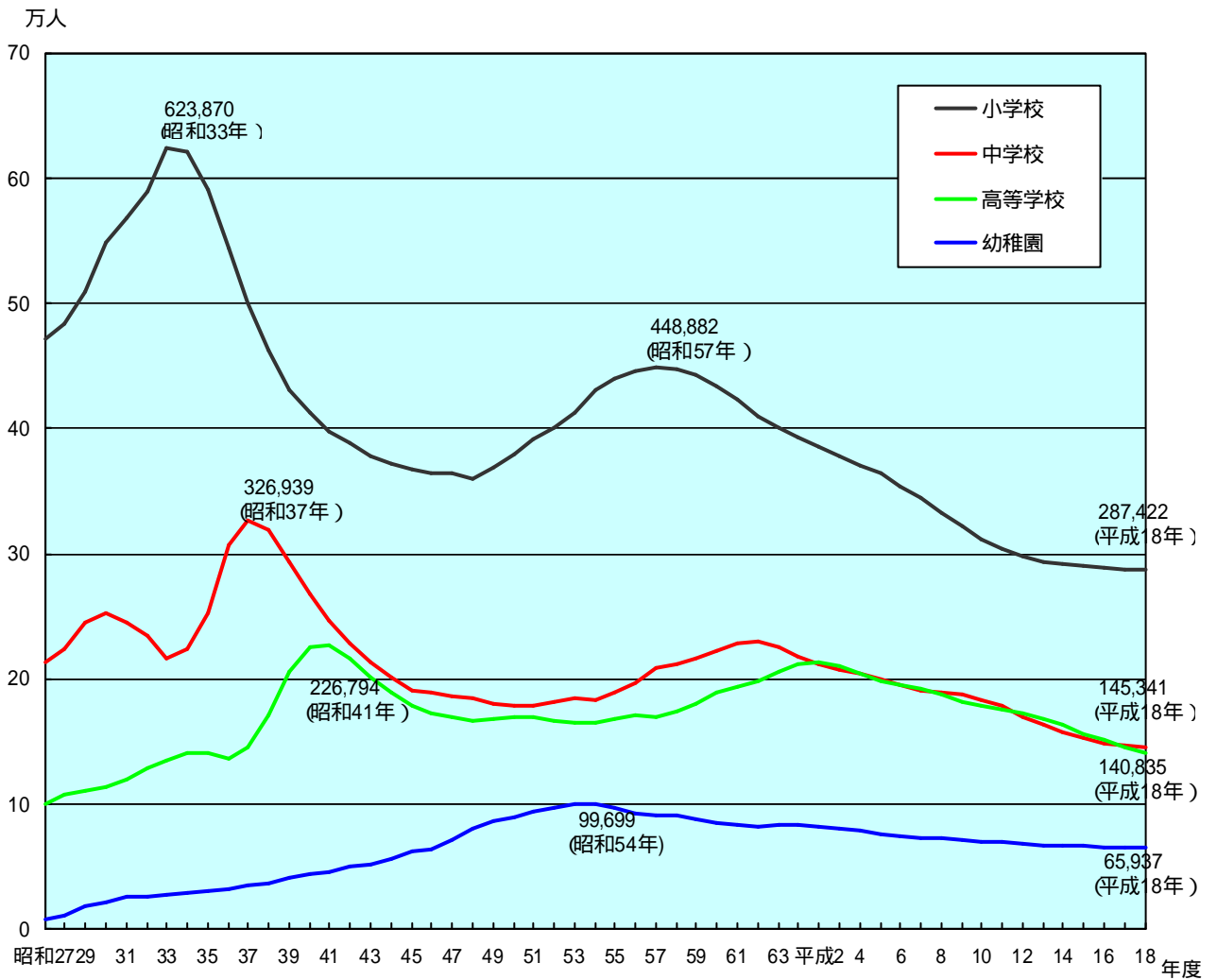
調査結果の概要

1 学校数・在籍者数

平成18年度の学校数は国公立併せて小学校781校、中学校379校、高等学校182校、中等教育学校1校、盲学校4校、聾学校5校、養護学校32校、幼稚園509園である。前年度と比べて、小学校で2校、中学校で1校、幼稚園で6園の減少、高等学校で1校の増加である。

毎年5月1日の幼稚園・小・中・高等学校における幼児・児童・生徒数の推移について表したものが図1-1である。

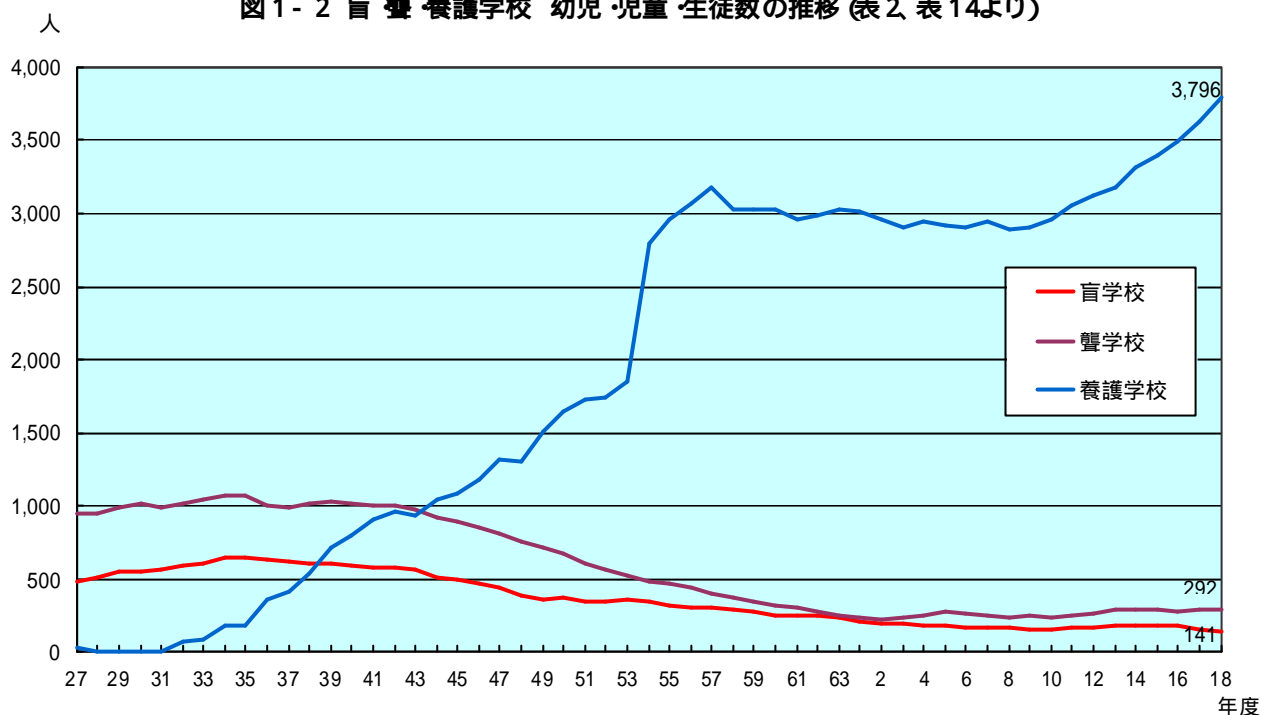
図1-1 幼稚園・小・中・高等学校 幼児・児童・生徒数の推移 (表2より)



盲聾養護学校における幼児・児童生徒数の推移について表したものが図1-2である。

平成18年度の在籍幼児児童生徒数は盲学校で141人、聾学校で292人、養護学校で3,796人である。養護学校の障害別内訳で見ると、知的障害が3,001人、肢体不自由が670人、病弱が125人である。

図1-2 盲聾養護学校 幼児・児童生徒数の推移 (表2、表14より)

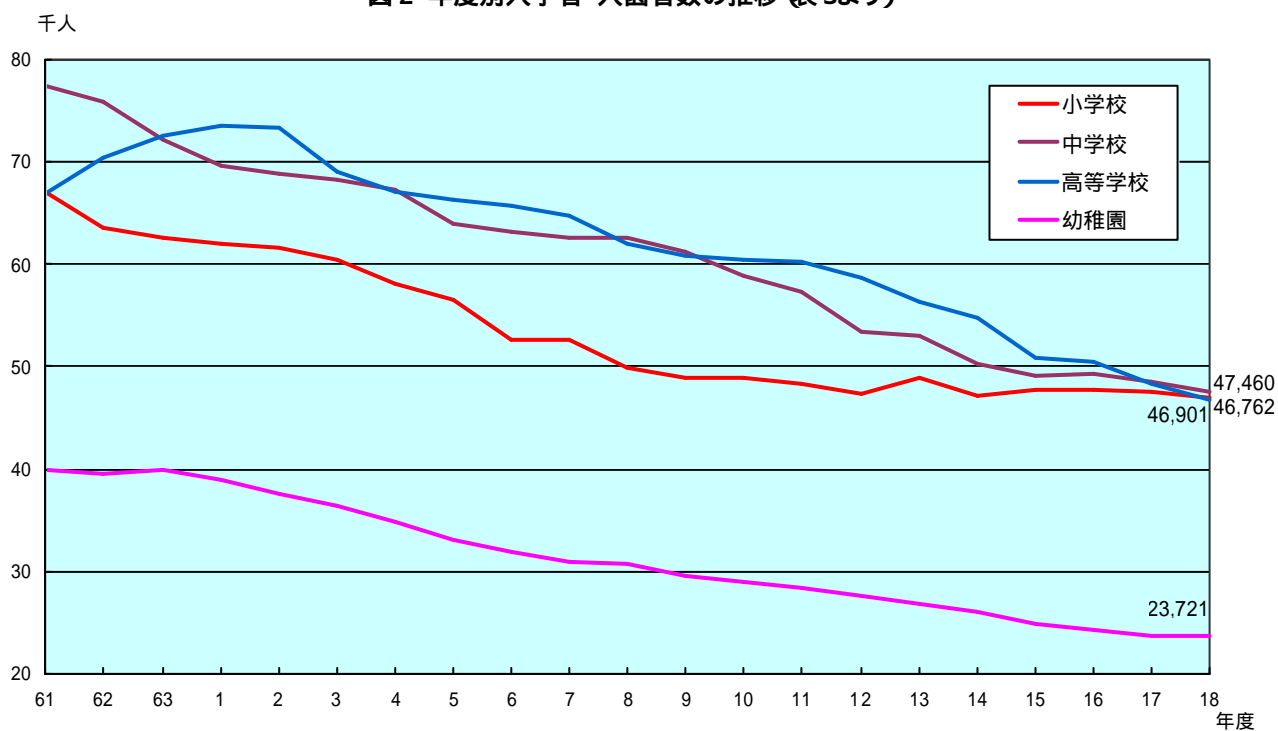


2 入学者・入園者・第1学年児童生徒数

過去20年間の入学者・入園者数の推移を表したものが図2である。

平成18年度の入学状況は幼稚園(3歳・4歳・5歳入園の合計)で23,721人、小学校(第1学年)で46,901人、中学校(第1学年)で47,460人、高等学校(本科)で46,762人であり、全ての学校種別で減少傾向が見られる。

図2 年度別入学者・入園者数の推移 (表3より)



3 中学校卒業後の状況

中学校卒業者の進路状況は、図3のとおりである。卒業生総数49,228人のうち、高等学校等進学者は47,556人、専修学校等入学者は406人、公共職業能力開発施設等入学者75人、就職者333人、左記以外・死亡・不詳858人である。

また、就職進学者は高等学校等進学者のうち9人である。

中学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図4のとおりである。

平成17年度(平成18年3月卒)における本県の進学率は96.6%で前年度から0.2ポイント下降しており、就職率は0.7%で前年度から増減はない。

図3 中学校卒業者の進路状況(表5より)

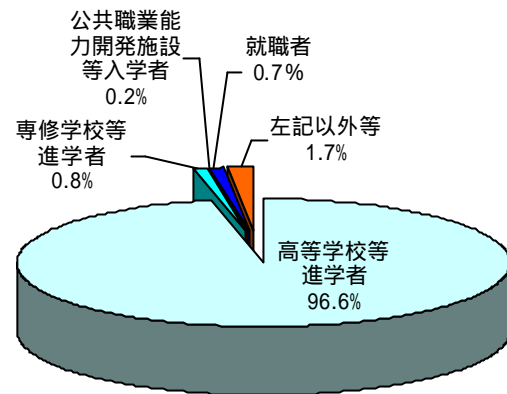
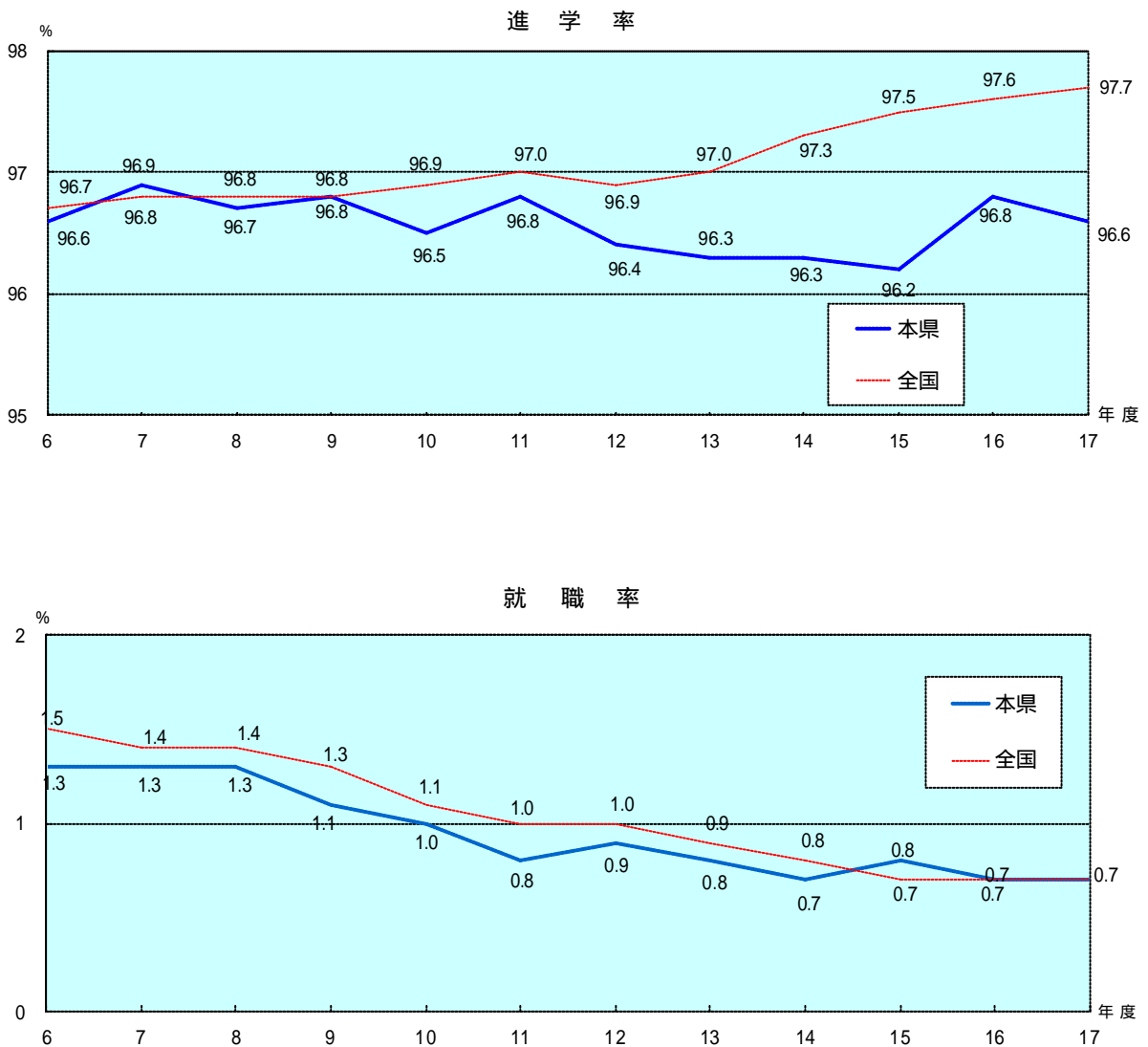


図4 中学校卒業者の進学率・就職率の推移(表6より)

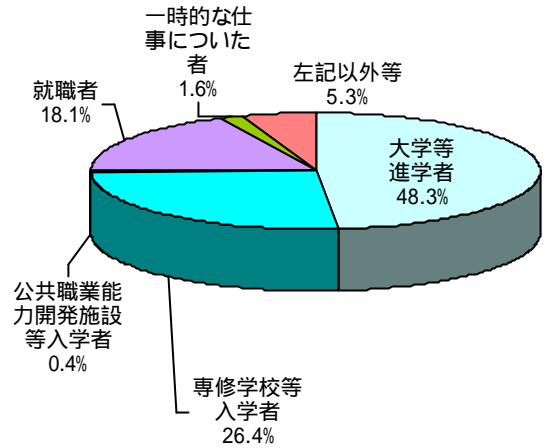


4 高等学校卒業後の状況

高等学校卒業者の進路状況は図 5のとおりである。卒業生総数46,565人のうち、大学等進学者は22,468人、専修学校等入学者は12,275人、公共職業能力開発施設等入学者は202人、就職者8,409人、一時的な仕事についた者729人、無業者・死亡・不詳2,482人である。

また、就職進学者は大学等進学者のうち1人、専修学校等入学者のうち39人である。

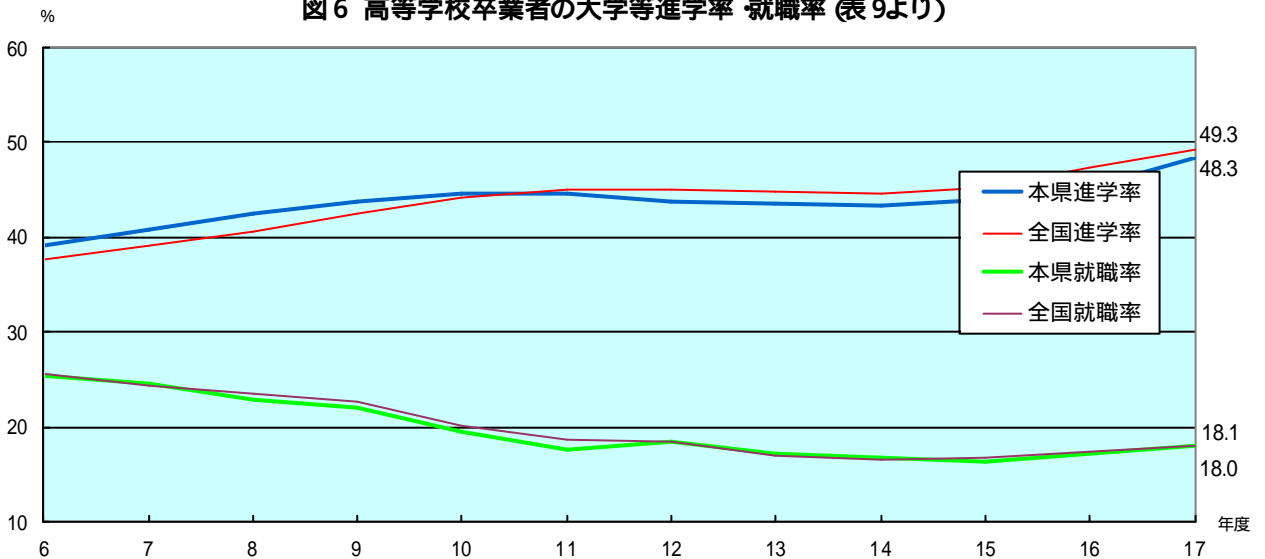
図 5 高等学校卒業後の進路状況 (表 7より)



高等学校卒業者の進学率・就職率の推移は、図 6のとおりである。

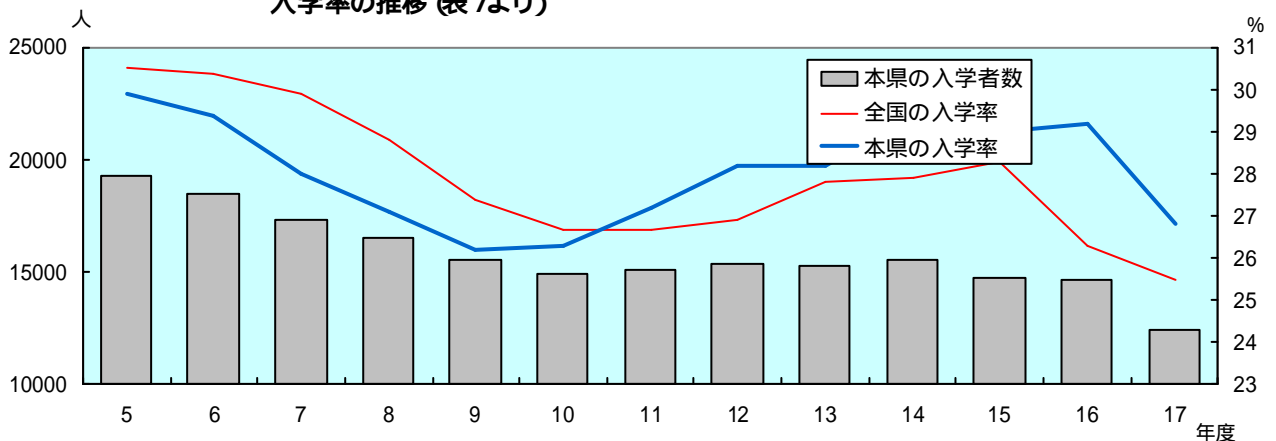
平成17年度(平成18年3月卒)における本県の進学率は48.3%で前年度から3.1ポイント上昇し、就職率は18.1%である。

図 6 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率 (表 9より)



高等学校卒業者のうち、専修学校等及び公共職業能力開発施設への進路状況は、図 7のとおりである。平成17年度卒業者のうち入学者数は12,477人(26.8%)である。

図 7 高等学校卒業者の専修学校・公共職業能力開発施設入学者(合計数)及び入学率の推移 (表 7より)



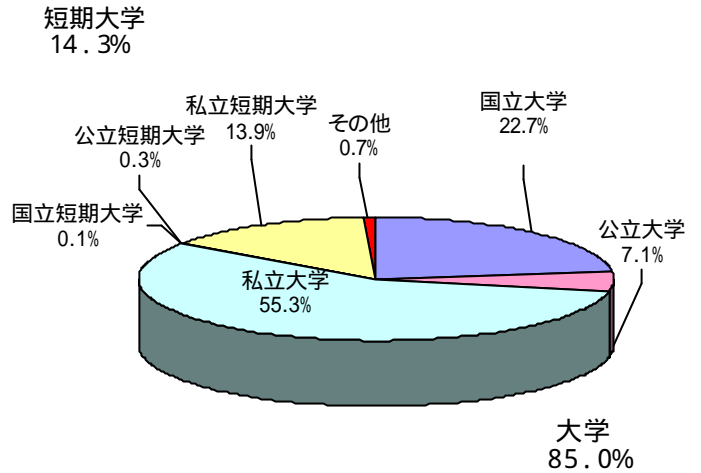
公立高等学校(全日制)から大学・短期大学等に進学した13,423人のうち、大学・短期大学への国・公・私立別進学状況は図8のとおりである。

最も多いのが私立大学への入学者で7,419人、ついで国立大学3,042人、私立短期大学1,864人、公立大学951人、その他(大学・短期大学の別科・高等学校の専攻科及び盲・聾・養護学校高等部専攻科等へ進学した者)94人、公立短期大学38人、国立短期大学15人となっている。

大学と短大の比較では、大学・短期大学等への進学者に占める大学への進学者の割合が昨年の84.5%から85.0%に増加したのに対し、短期大学への進学者は15.0%から14.3%へ減少しており、大学への進学割合が増加している。

国・公・私立別では、国・公立の大学・短期大学の進学者の割合が29.0%から30.1%に増加したのに対し、私立の大学・短期大学への進学者は70.5%から69.2%に減少した。

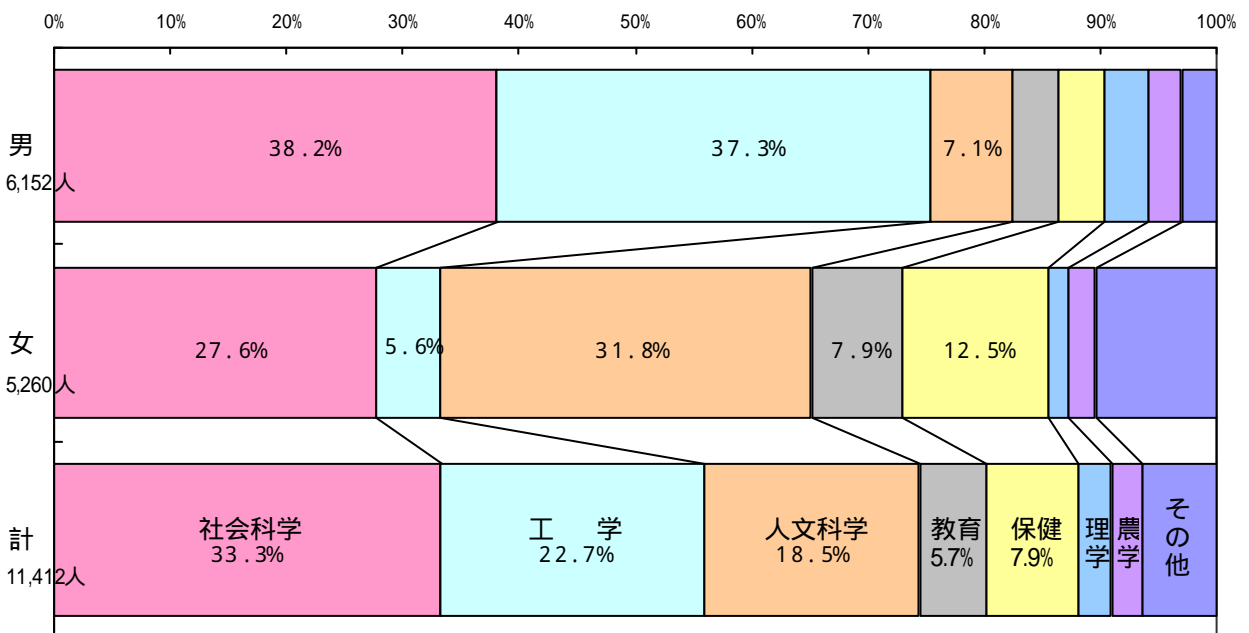
図8 高等学校卒業者の大学・短期大学への国・公・私立別進学状況 [公立 全日制] (表10より)



公立高等学校(全日制)卒業者の大学への専攻別進学状況は図9のとおりである。男子の大学進学者は、6,152人、女子の大学進学者は5,260人である。

大学進学者で見ると、全体では社会科学関係が最も多く、33.3% (男子 38.2%、女子 27.6%)となっている。男女別でみると、男子で工学関係 (37.3%) が社会科学の次に多く、女子では人文科学 (31.8%) が最も多い。(図中のその他には商船、家政、芸術、その他を含む。)

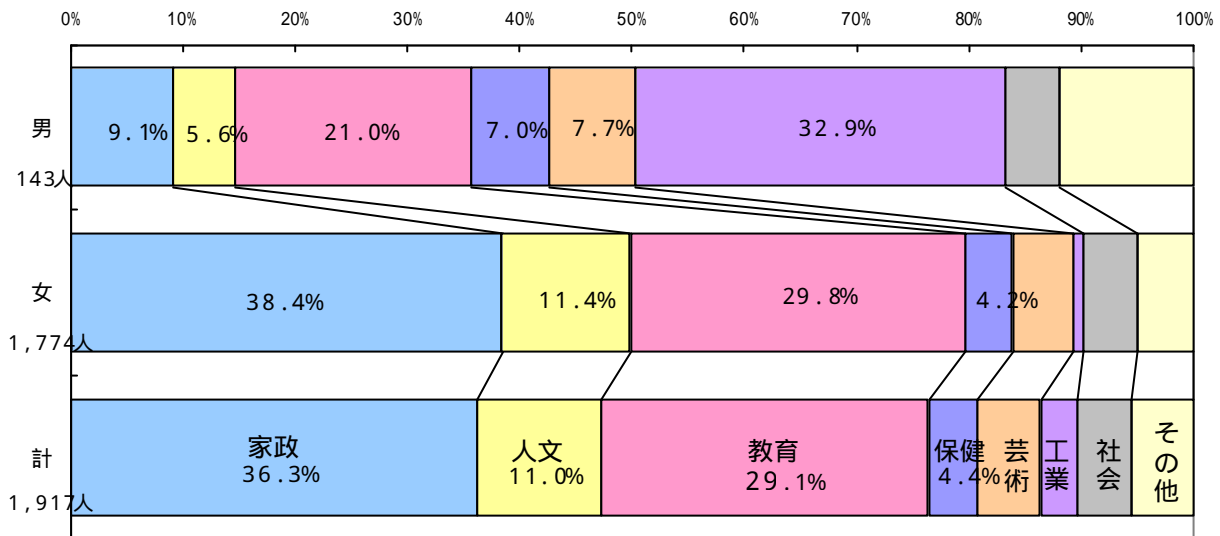
図9 高等学校卒業者の大学への男女別、専攻別進学状況 [公立 全日制] (表11より)



公立高等学校(全日制)卒業者の短期大学への専攻別進学状況は図10のとおりである。男子の短期大学進学者は143人、女子の短期大学進学者は1,774人である。

男子で多いのは工業関係で32.9%、次いで教育21.0%、家政9.1%となっている。女子では家政が最も多く38.4%を占め、次いで教育29.8%、人文11.4%となっている(図中のその他には教養、理数、農業、その他を含む。)

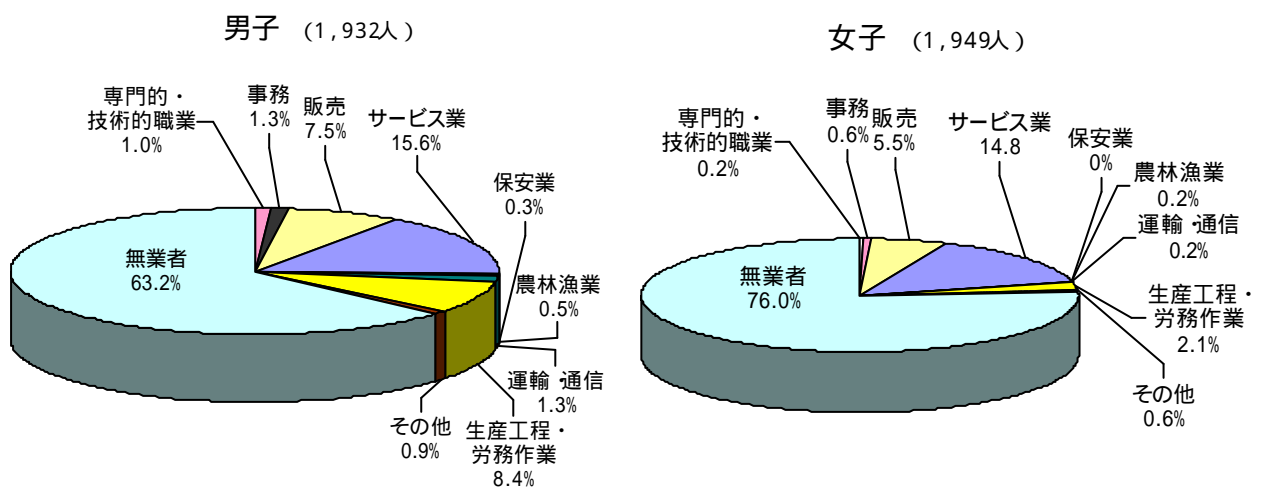
図10 高等学校卒業者の短期大学への男女別、専攻別進学状況(公立 全日制) (表11より)



5 定時制課程在籍生徒の男女別就業状況

高等学校定時制課程の生徒の就業状況を男女別に表したものが図11である。男女とも無業者の占める割合が最も多く、男子では1,221人(63.2%)、女子では1,482人(76.0%)である。次いで多いのが、男女ともサービス職業従事者で、男子では302人(15.6%)、女子では288人(14.8%)である。

図11 高等学校定時制課程在籍生徒の男女別就業状況(公立)(表12より)



6 学校教育法第75条の学級(特殊学級)の状況(公立)

学校教育法第75条の学級(特殊学級)の児童生徒数は、平成18年度で小学校2,180人、中学校981人である。図12は過去14年間の児童生徒数の推移であり、図13は平成18年度における障害の状況の構成を表したものである。

図12 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の推移(表16より)

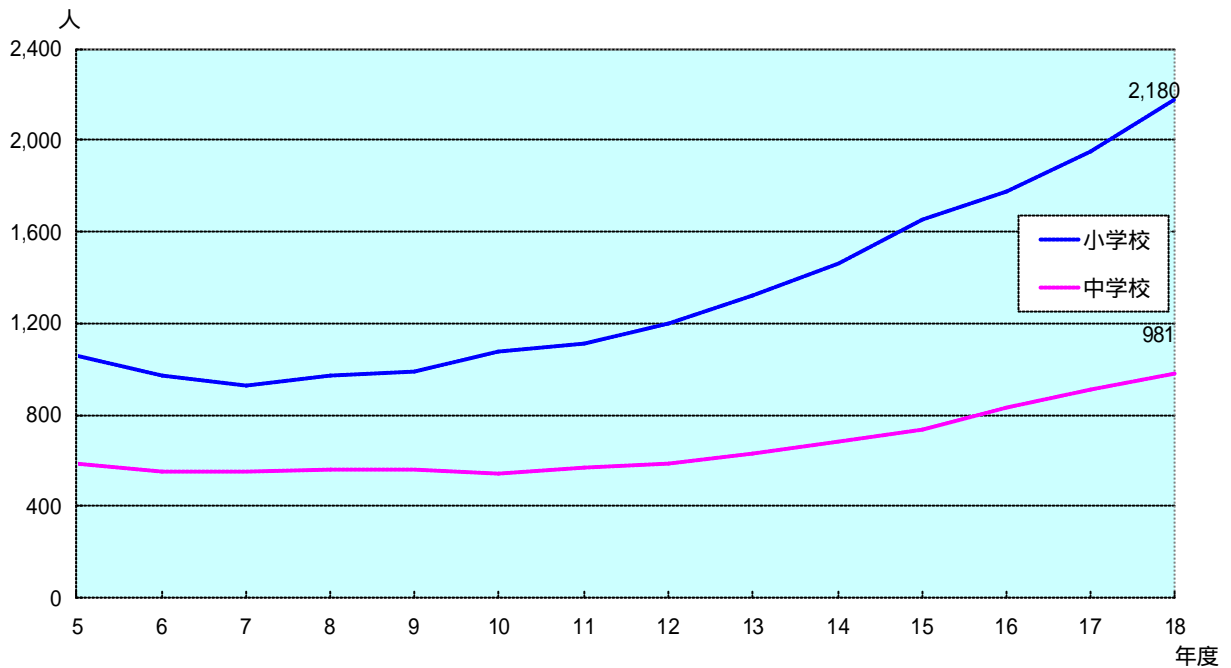


図13 学校教育法第75条学級(特殊学級)の児童生徒数の障害別内訳(表16より)

